



## スカイプ第2弾 デスクワークからフィールドワークへ



令和元年9月19日(木) 10:00-11:00

前日まで ワットスッターラム高校(WS高校)とグループラインにて日程調整

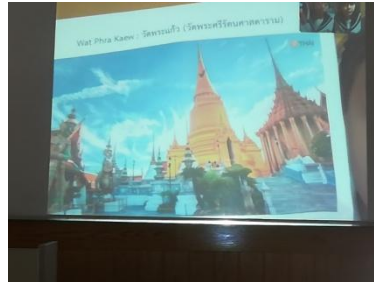
9:00-9:20 興学館にて 設営準備

iPad(ソフトバンク 4G)管理番号5番など、前回とほぼ同じ。(話し手を照らすライトを新たに設置した)

10:00 津島高校からスカイプ通話開始の合図を送る すぐにつながる

10:01-10:32 スカイプ通話(デスクワーク)

バンコクの学校では、11月から2学期が始まるため10月は休みとなる。WS高校は現在テスト期間中。生徒の負担を軽くするため、前回と同じ生徒とのスカイプとなった。質問中心の前回と異なり、今回はWS高校側が、校門や校舎全体、そして王宮やチャオプラヤー川の写真を用いて英語で丁寧に紹介してくれた。本校生徒のなかには、昨年度訪問したワットプラケオ等が画像として示されると、思わず「行った、行った」と日本語で盛り上がっている生徒も。“I've been there.”とさっと英語で言えるようになるといいのだが。



10:33-11:15 スカイプ通話(フィールドワーク)

今度は自分たちの番だと、4人の生徒が学校案内を取り出してスカイプ画面に映そうとしたところ、WS高校側から「写真ではなく、実際に見てみたい」との要望があった。こちらが「あれま」と驚いた顔をしていると、急に何か思いついたように4人の顔は輝き出した。「iPad だけ持って校内をまわったら? そこで実況中継すればいいよね」と、何か胸の軽くなるおかしさで、床を蹴るように4人は立ち上がった。自分が所属する教室、そこから廊下を進み、途中で出会う生徒たちを不思議な優越感で脇に追いやりながら靴箱、自動販売機の前へ。そして体育の授業の様子をバンコク高校生にひととき大きな声で説明。さらには自転車置場でなぜか自分の自転車を指差し、テミス像前へ。その像の説明が英語でうまく表現できないことで、ようよう我に返った4人であったが、「うまく説明できなかったら次の機会にすればいい。‘テミス像’から‘テニス場’へ行こうか」という助け船にノ(乗)せられて周遊を続け校門までたどり着いた。こうしてまわっていると、県下で2番目を誇る校地の広さが、かえってバンコクから投げられた輪の中を堂々巡りしているような不思議な狭さを感じられた。次回は、本校生徒の参加の枠を広げて11月に行う予定である。

